

平成26年度 胎内市図工・美術部 事業報告

部長 富樫 俊恵（胎内市立黒川小学校）

1 研究主題

感性を働かせて生き生きと創造活動をする子どもの育成

2 研究内容の概要

第1回部会 活動計画の立案と実践上の情報交換（5月12日）

第2回部会 実技講習会 鑑賞教材「ミモカアートカード」を用いた鑑賞指導のあり方
(7月31日)

第3回部会 授業研究会 第1学年「絵文字」中条中学校 伊藤智志教諭（11月13日）

3 研究の実際

(1) 実技講習会 鑑賞教材「ミモカアートカード」を用いた鑑賞指導のあり方（7月31日）

- ・中学校の鑑賞指導に使用したことがあるという鑑賞カード『ミモカアートカード』を用いて鑑賞指導の在り方を探った。『ミモカアート』とは、小中学校の授業で使うことを目的とした美術作品の鑑賞教材で、猪熊弦一郎の作品が印刷されているアートカードと音や様子を表す言葉が載っている「音カード」がそれぞれ60枚からなっている。研修では、複数のカードの作品について共通点を探す「ならべてマッチング」や「めくってマッチング」というゲームを3人組で実施した。アートカードを使った遊びを体験することで、作品の見方が一つではないことに気づいたり、自分の言葉で表現したりと、コミュニケーション能力につながっていく鑑賞教材であった。

(2) 授業研究

① 授業者 教諭 伊藤 智志（中条中学校）

② 単元名 第1学年「絵文字」

③ ねらい

- ・鑑賞を通じて、これからの制作の追求に生かす。

(関心・意欲・態度)

- ・アイディアスケッチの発想の面白さやわかりやすさ、絵文字にあった色つけ、文字の美しさと丁寧さなどの大切さに気づかせ自分の下描きで見直すことができる。(発想・構成能力)
- ・自他の作品を鑑賞することでよさと美しさを感じるとともに、ポイントを押さえた批評をすることができる。(鑑賞の能力)

④ 参観後の感想

- ・自分や友達の描いた作品に対して交流し会える場があることはとてもよい。
- ・教師が鑑賞のポイントを示したことはよかった。発想のおもしろさや意味の分かりやすさ、絵文字に合った色つけ、レタリングの美しさの視点からそれぞれの作品についてよく話し合がされていて、友達の作品のよさを伝えようとする気持ちが伝わってきた。
- ・付箋の活用は有効であった。自分の考えをグループの友達に伝えることができていた。

⑤ 作品鑑賞

- ・中学校の生徒の作品を鑑賞することができ、小中学校で行っている図工・美術のつながりを垣間見ることができた。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・実技講習は、まとまった時間が必要なため、夏休みに2回研修を行ったことはよかった。
- ・実際に鑑賞教材に触れたり、中学校の美術の授業を参観して、見通しをもった指導が必要であることを再確認することができた。

(2) 課題

- ・授業研究を通して、小中連携について情報交換をしていく。また、小中学校両方のニーズに応えられるような研修内容を計画し充実を図る。